

幼児と漢字と記憶力

31期生

I テーマ設定の理由

現在5才児である妹を相手にして、「幼児と漢字と記憶力」という題の下で、調査を行なうのも今年で3年目となった。2年前、3才児だった妹が、ひらがなの50音図を見て、遊びながら覚えているのを見て、(幼児はどのようにして文字を覚えていくのだろうか)と疑問を抱いたのだが、ひらがなはもう大半覚えてしまっているので、妹にとって全く未知の世界である“漢字”を材料にして研究してみようと思った。

II 研究方法

まず画用紙で5センチメートル四方のカードを40枚作り、10枚ずつをひと組とし、4つの組に分ける。分け方は次の通りにする。

- 一組…総画数は5画以内で、妹がすでに意味を知っていて、日常使っている漢字の組
- 二組…総画数は5画以内だが、妹がまだ意味の知らない漢字の組
- 三組…総画数は16画以上で、妹がすでに意味を知っていて、日常使っている漢字の組
- 四組…総画数は16画以上だが、妹がまだ意味の知らない漢字の組

一昨年の調査の時に作成した漢字の組を旧漢字、昨年の調査の時に作成した漢字の組を新漢字と定め、それぞれ40字ずつ計80字を下記のように4つの組にあてはめておく。

	旧漢字	新漢字
一組	山木手水目女口犬水牛	土子心今本尻甲耳色虫
二組	力仏兄左矢弓円冬母牙	刃公凶仇主幻尺会北肌
三組	葉錠頭顔鶏蟻鯨籠鰻鶴	親鎖燕鏡橋額鍋雛藍蠅
四組	壁橋機獸縦縞蠟藪藤鶯	壇樽瞳翼翅産露鷓鱗鷹

— 調査方法 —

- (1) まず、ひと組10枚のカードの裏には、1～10までの番号を付け、調査の時には順序よく妹の前に並らべ、その読みを教える。
- (2) 次に、最初から順番に1枚ずつのカードの読みを読ませ、正しいかまちがっているかを調査する。正しく読めない時には教える。この調査を一日3回ずつ行なう。
なお、一日の調査は旧漢字又は新漢字のうちのひと組のみとする。一組の漢字を全部覚え込むまで連日調査を行ない、覚え終わったら次の日からは二組に移り、同じように毎日休みなく調査を続ける。
- (3) その時の妹の様子を細かく観察して記録しておく。

旧漢字

		総画数5画以内で意味を知っている漢字										総画数5画以内で意味を知らない漢字									
		山	木	手	水	目	女	口	犬	水	牛	力	仏	兄	左	矢	弓	円	冬	母	牙
一	一回目	23	23	123	23	23	23	123	23	23	23	1	3			123	3	3	3	3	23
日	二回目	23	23	123	23	23	23	123	23	23	23	123	23	23	123		3	3	23	23	23
目	三回目	12	2	12	2	2	2	12	2	2	2	123	23	23	123	2	23	3	23	123	23
二	一回目		1				1		1		123	23	23	1	3	3	3	3	23	123	23
日	二回目		1		1	1	1		1		123	23	23	123	123	23	23	23	123	23	23
目	三回目		1		1	1	1		1	1	12	2	2	12	2	2	2	2	12	2	
三	一回目	1	1		1	1	1	1	1	1	1		1	1	1					1	
日	二回目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1
目	三回目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1		1	1			1	1
四	一回目											1	1	1	1	1		1		1	1
日	二回目											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
目	三回目											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

		総画数16画以上で意味を知っている漢字										総画数16画以上で意味を知らない漢字										
		葉	錠	頭	顔	鶏	蟻	鯨	籠	鰻	鶴	壁	橋	機	獸	縦	縞	蠟	藪	藤	鶯	
一	一回目	1	3	123	123	23	3	123	23	23	3	23	1	3	23			3	2	23	23	
日	二回目	12	12	12	12	12	2	12	2	1	12	123	123	23	2	3	3	123	123	3		
目	三回目	12	12	12	12	12	12	2	2	12	123	123	23	2	23	23	123	123	3	23		
二	一回目	1	1	1	1	1	1			1	12	2	23	23	23	23	123	1		3	1	3
日	二回目	1	1	1	1	1	1			1	123	23	23	123	3	23	123	123	3	123		
目	三回目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	2	2	12	2	2	12	12	2	12		
三	一回目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1							1				
日	二回目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				1	1	1	1	1	1	1	
目	三回目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				1			1	1	1	1	
四	一回目											1			1		1	1	1	1	1	
日	二回目											1		1	1		1	1	1	1	1	
目	三回目											1	1	1	1		1	1	1	1	1	
五	一回目											1	1	1	1		1	1	1	1	1	
日	二回目											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
目	三回目											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

注) グラフ中の「1」は一昨年(3才児)調査した時の正解
「2」は昨年(4才児)調査した時の正解
「3」は今年(5才児)調査した時の正解
} を表わしている。

新漢字

		総画数5画以上で意味を知っている漢字										総画数5画以上で意味を知らない漢字										
		土子心今本尻甲耳色虫刃公凶仇主幻尺会北肌																				
一 日 目	一回目	23	23	23		3	23	23	23	23	23	23	23	23			3	3	23	3	3	
	二回目	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	3	23	3	23	23	3	23
	三回目	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
二 日 目	一回目															2	2	2				
	二回目														2	2	2	2	2	2	2	2
	三回目														2	2	2	2	2	2	2	2

		総画数16画以上で意味を知っている漢字										総画数16画以上で意味を知らない漢字										
		親鎖燕鏡擒額鍋雛搦蠅壇榇腫翼麴灘露鷗鱗鷹																				
一 日 目	一回目	23	23	23	23	23		23	3		23	23	3	23		3	3	3	3			
	二回目	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	3	3	23	3	23	3	3	3	3	3
	三回目	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
二 日 目	一回目											2			2	2					2	
	二回目										2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	三回目										2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
三 日 目	一回目											2		2	2	2	2				2	
	二回目										2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	三回目										2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

注) グラフ中の「2」は昨年(4才児)調査した時の正解
「3」は今年(5才児)調査した時の正解 } を表わしている。

III 研究結果

(1) 三年間を通しての記憶力の移り変わり

表1の旧漢字を見ると、一昨年調査を行なった時の結果は15日間も費やしたが、昨年は六日間で終了、今年は昨年と同じく6日間ということ、一昨年から昨年にかけてすなわ

<表1>

	一昨年	昨年	今年
旧漢字	15日	6日	6日
新漢字	—	7日	4日

ち3才児から4才児にかけての大きな進歩に比べ、4才児から5才児にかけての進歩はあまり見られないということである。けれど、今年行なった新漢字の場合は、旧漢字の調査が終了してから新漢字に移ったので、最初に行なった調査で幾分漢字慣れがしたとでも言うのだろうか、昨年の7日間よりも3日も早い4日間で記憶してしまつた。しかし、3才児から4才児にかけての進歩とは比べものにならない。

(2) カードをバラバラにしての調査

ひと通りの調査を終了した後、今まで順序よく並べていたカードをバラバラにして妹の前に置き、妹の好きなものから取らせて読ませてみた。というのは、妹がカードの順序で覚えているのではないかという疑問のためであった。しかし、これらの調査には、ほとんどまちがえることなく正解率が99%できたと言うことは、カードの並んでいる順序で覚えているのではないという事が判明した。

(3) 調査終了後10日目の記憶力の調査

あるひと組の調査終了後から10日後の記憶力の調査を行なってみた。予想では、10日も経てば、50%程度の記憶が精いっぱいなのではないだろうかと思っていたのだが、この予想を大きく反して、3才児、4才児、5才児の全調査を通じてだいたい変わりなく、それぞれ90%前後の正解率であった。ほく自身、予想に反した驚きだった。

(4) 一年後の記憶力の調査

一昨年行なった旧漢字を昨年に、今年に再び調査する前に、何も読みを教えずにおいて、一年間経過した時点でどれだけ覚えているのか……という一年間最も楽しみにしていた調査であった。同様に、昨年行なった新漢字を今年に再び調査する前にも、この調査を行なった。しかし、その結果は、昨年、今年といずれにしてもわずかに覚えているだけであった。このわずかに答えられたものも本当に覚えていたのかというと怪しくて、一年間の間に本やテレビなどどこかで目に入ったものらしいと考えられる。

この調査結果が示すがごとく、4才児、5才児にかかわらず、一年間に一度も漢字を見せないでいて、覚えておくことは、とうてい無理なことだということがわかった。

(5) 熟語の記憶についてはどうであるか?

今年、新漢字の調査がすべて終了した上で、新たな試みに、今までは一文字の漢字を材料にしていたが、二文字の熟語についてはどうであるかという調査を行なってみることにした。

— 方法 —

まず、5センチメートル、10センチメートルの長方形の画用紙を20枚作り、10枚をひと組とし、2つの組に分ける。そしてA組、B組を次のように分ける。

A組……妹が意味を知っている二字熟語の組

B組……妹が意味を知らない二字熟語の組

そしてA組B組に次のように二字熟語を当てはめる。調査方法は、一文字の漢字

A 組	B 組
鉛大新栗掃電勉太味帽	少謝把葬発窓蒸傘粉端
筆根聞子除気強鼓嚙子	年辞握式奮悪発下雪麗

の時と同じ要領でこの調査を行なう。

この結果は、A組では日常で言い慣れているためか、上の文字と下の文字とを混同することはなく、正しく覚え、一日目に早くも終了してしまつた。しかし、反面B組では、全く意味の知らない二字熟語のためか、上の文字と下の文字との組み合わせ

わせが混同することがたびたび見られた。例えば、「謝辞」を尋ねた場合「謝辞」の「辞」と「把握」の「把」をとり「把辞(はじ)」と答えるような、混同ぶりであった。このためA組に比べて随分戸惑ったが、それでも二日目で終了した。

(6) 覚えやすい漢字の組・覚えにくい漢字の組とは？

表2を見ても一目瞭然ながら、覚えやすい漢字の組というものは、旧漢字・新漢字を問わず、意味を知っている漢字の組である一組と三組であることが分かった。反対に覚えにくい漢字の組は、意味を知らない漢字の組である二組と四組であるという結果が当然ながら得られた。たとえ、総画数が多くとも意味さえ知っていれば、すぐに覚えられる。逆に総画数が少なくても意味を知らなければ、覚えにくいということも明らかになった。

<表2>組別の終了日数

		一組	二組	三組	四組
旧漢字	一昨年	3日	4日	3日	5日
	昨年	1日	2日	1日	2日
	今年	1日	2日	1日	2日
新漢字	昨年	1日	2日	1日	3日
	今年	1日	1日	1日	1日

(7) 特に覚えやすい漢字・覚えにくい漢字とは？

グラフから判断すると、漢字の読みがそのものの形とよく似ている漢字であるのだろう。その典型的な例が、「手」と「口」である。<図1> <図2> 実際、妹に、なぜ「手」や「口」をすぐに覚えられたのかと聞くと、「手」は実際の手のひらを開けた時(図1)「口」は実際の口を大きく開けた時(図2)の形に似ていると教えてくれた。



又、反対に覚えにくい漢字というものは、他の漢字と字の形がよく似ているものであるだろう。例えば、この全調査漢字中に、「錠」「鎖」「鏡」「鍋」など金へんの漢字が4つも出て来たためか混乱して戸惑った様子も見られた。

(8) 三年間を通して全般に感じたこと

幼児というものは、自分達が興味を持って遊んでいるときに文字を覚えていくことが多いのだなあとということである。僕の場合には一つの事柄に集中しなければ覚えられないが、幼児の場合はそうではないらしい。調査中に僕が、何度教えても覚えることができず、調査であるということもつい忘れてしかって真面目にやらせた時に比べ長い時間かけて、一緒に遊んでやりながら進めた時の方がどれほどすらすらと答えた事かしれなかった。

— 参考資料から —

某幼稚園の5才児の41名のクラスの中で漢字をどこから覚えたのかという調査に、56.5%までが本からで、テレビからは11.8%などとなっている。

本	テレビ	人の名前	事物の表示	広告看板	その他
56.5%	11.8	11.1	8.2	3.9	8.5

<表3> 漢字を覚える手段

IV 結論

※4才児から5才児にかけての記憶力の進歩に比べ、3才児から4才児にかけての進歩は驚異を感じるほどで、この3年間の全調査を通じての思いがけない結果が生まれ、このことは、この3年間での自由研究において、最高の感動さえ覚えるほどのうれしい発見であった。すなわち、4才児の記憶力は急激に頂点に達し、後は緩やかな線の上昇をたどっていくのではなかろうか。

なお、4才児の調査では、意味を知らない漢字の組が、意味を知っている漢字の組とさほど大差なく、早い終了を遂げているのも3才児の時と大きく異なっている。けれど、5才児では、意味を知っている漢字も知らない漢字もほとんど関係なく、同時に終了している新漢字の方も、注目すべき事柄である。

※カードをバラバラにしての調査の結果はほとんど100%近い正解率であった。

※調査終了後10日後の記憶力の調査の結果は3才児、4才児、5才児の全調査を通じてまちがった漢字はわずかで、90%前後の正解率であった。

※一年後の記憶力の調査では、3才児4才児といずれの時点にもかかわらず、ほとんど覚えていないことがわかった。

V 総括

調査中に反省させられる場面が多分にあった。それは、妹がなかなか覚えられないのを見て、ほくがいらいらして、「もっとしっかり覚えんか」と怒鳴ったりすることがたびたびあった。そのために、妹が「もう、勉強なんかいやや」などと言いつつようになってしまった。これはあくまでも調査なのであって、妹にむりやり押しつけて漢字を覚えさせているのであってはならないはずであった。この調査の最大の難関はそこにあった。すぐに飽きやすい幼児期の特に出発点が3才という年代であった。いかになだめ、おだてて、その場を逃げ出そうとする時の妹をうまく操っていくか、そのためには、おやつで釣り、終わってから遊んでやると言っただけでは釣り……さんざん手こずり、困ったものであった。

けれど、普通の生活では、あまり妹と接することが少なかったが、この自由研究というものを通しての3年間の夏休みには、あまり知ることのなかった幼児の世界の一端をかいま見ることができ、そして、二人のいい思い出として、きつと残るであろうことに大いに満足のいく自由研究であったと思う。

さて、すべての調査が終了して、改めてまとめ上げた表を見渡して、僕は解明の出来ない幾つかの不思議を見た。そして、その幾つかの不思議を残して3年間の自由研究を終わろうとしている。同じ様に意味の知らない漢字で、一方は1日目の1回目から覚えてしまった(壁)に対し、もう一方は5日目の3回目にしてやっと覚えることができたといった極端な現象を示したり、又、(橋)の様に最初の日にすらすらと終わった漢字が、翌日からさっぱりだったり、どうしても、今もって理解に苦しむ現象を残して……。

しかし、謎だけを残して終わろうとしているのではない。解明することができた数々の喜びの方をより多く残して……。